

スポーツ・多様性・ 社会を考える アジア対話フォーラム

2026年

9月20日(日) 11:00-18:30

名古屋国際センター(NIC) 別棟ホール

オンライン配信あり

だれもが
安心して参加できる
スポーツとは何か？

主催 NPO法人プライドハウス東京

共催・協力 NPO法人ASTA、名古屋レインボープライド ほか

助成 日本財団

セッション助成・協力

Heinrich Böll Foundation (第2部)

成城大学 スポーツとジェンダー平等 国際研究センター
(SGE) (第3部)

後援 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)

2026年9月、愛知・名古屋でアジア45の国・地域から選手やスポーツ関係者が集うアジア競技大会が開催されます。

国や文化の違いを超えて人と人をつなぐスポーツ。その一方で、ジェンダー、セクシュアリティ、国籍、人種、障害、宗教などを理由に、スポーツの場から遠ざけられている人たちもいます。

特に昨今ではトランスジェンダー女性やDSDを有する女性アスリートへの影響は顕著です。スポーツと人権のあり方を、アジア各地のアクティビスト、アスリート、研究者、市民とともに、アジアの文脈から考えます。

お申し込みはこちら ▶

テーマに関心のある方であれば
どなたでもご参加いただけます！



第1部

パネルディスカッション 1

アスリートと考える 安心・安全な スポーツ空間づくり

セーフスポーツやハラスメント防止、多様な身体・アイデンティティへの理解などを切り口に、誰もが尊重されるスポーツ環境のあり方について語り合います。アスリート自身の経験や声から、スポーツの場における安心・安全とは何かを問い直します。



高橋 藍

公益社団法人
日本ボクシング連盟 理事
元シュートボクシング
日本フライ級王者



藤岡 奈穂子

元世界5階級制覇王者
2026年
国際ボクシング殿堂入り



川村 慎

一般社団法人 Japan PDP
代表理事



小塩 靖崇

東京大学
スポーツ先端科学
連携研究機構
特任講師

モデレーター

第2部

パネルディスカッション 2

アジアの アクティビストと考える 法整備とLGBTQ+

アジア各国のLGBTQ+を取り巻く法制度や社会状況は多様で、それぞれ異なる歴史的・文化的背景があります。各国のアクティビストや支援団体が直面する課題と実践を共有し、アジアの文脈に根ざした権利保障や市民社会の役割について考えます。



Riska
Carolina

ASEAN SOGIE Caucus
アドボカシーオフィサー



Manisha
Dhakal

Blue Diamond Society
(ネパール) 事務局長



松岡 宗嗣

一般社団法人 fair
代表理事



西山 朗

(一社) LGBTQ法連合会
参事

モデレーター

Supported by



セッション助成 Heinrich Böll Foundation

第3部

トークセッション

分断が深まる時代に、 スポーツは何ができるのか

近年、スポーツは多様性や包摂を推進する場として期待される一方で、ジェンダー、セクシュアリティ、人種、宗教などをめぐる対立や分断が可視化される場にもなっています。国際オリンピック委員会が2026年3月に発表した遺伝子検査導入の方針を中心に、スポーツ現場における排除や分断を多角的に捉え、より包摂的なスポーツと社会のあり方を考えます。



Payoshni
Mitra, PhD

Humans of Sport
代表理事



野口 亜弥

成城大学
スポーツとジェンダー平等
国際研究センター
副センター長

聞き手

Supported by



セッション助成 成城大学 スポーツとジェンダー平等国際研究センター (SGE)

第4部

パネルディスカッション 3

スポーツ団体の プライドアクション

国内外のスポーツ団体からセーフガーディングやLGBTQ+インクルージョンの取り組みを共有し、競技現場・職場・ファンコミュニティにおける包摂的な環境づくりについて議論します。制度整備だけでなく、日常的な実践や組織文化の変化にも目を向け、人権を中心にスポーツ団体に求められるコンプライアンスについて話します。



杉山 文野

公益財団法人
日本オリンピック委員会
理事

公益社団法人
日本フェンシング協会
理事



日比野 暢子

桐蔭横浜大学大学院
スポーツ科学研究科 教授

(公財)日本サッカー協会
「Access for All」
ワーキンググループ リーダー



多田 雅之

公認会計士

モデレーター

その他
登壇者
調整中

